

第90回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成23年4～6月期実績・平成23年7～9月期見通し)

1. 調査時点 平成23年6月1日～6月7日
2. 調査対象企業数 179社中回答 179社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以下	40	40	100.0
建設業	〃	46	46	100.0
卸売業	従業員 100人以下	8	8	100.0
小売業	従業員 50人以下	54	54	100.0
サービス業	〃	31	31	100.0
合計		179	179	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課 (TEL. 0146-22-4114、内線 621)
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 179 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です















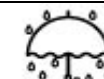






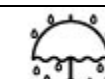






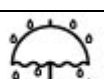







□ 概 況


今期（平成 23 年 4～6 月期）の業況判断 D I 値は△50.8 と、前期（平成 23 年 1～3 月期 △56.4）比マイナス値が 5.6 ポイント縮小し僅かながら改善した。業種別にみると、建設、卸売で改善し、製造、サービスで悪化となった。小売は前期比ほぼ横ばいの値となっている。5 業種中建設が△32.6 と最も高く、逆に最も低い値を示したのは卸売の△62.5 であった。

売上額、収益判断 D I 値は、売上額が△33.5(前期△58.6)、収益が△10.9(前期△24.9)と、前期比それぞれ 25.1、14.0 ポイント上昇し、マイナス値が縮小した。全業種で、売上額、収益ともに上昇している。

来期（平成 23 年 7～9 月期）の予想業況判断 D I 値は△44.7 と、今期（△50.8）実績比 6.1 ポイントの改善見通しとなっている。業種別にみると、製造、卸売、小売で改善、サービスで悪化を見通している。建設は今期と横ばいの見通しとなっている。

【業種別天気図】

業種	時期	地 区 内				北 海 道	全 国
	22 年 10～12 月	23 年 1～3 月	23 年 4～6 月	23 年 7～9 月見通し	当 期	当 期	
総 合							
製 造 業							
建 設 業							
卸 売 業							
小 売 業							
サ ー ビ ス 業							



好調 ← → 低調

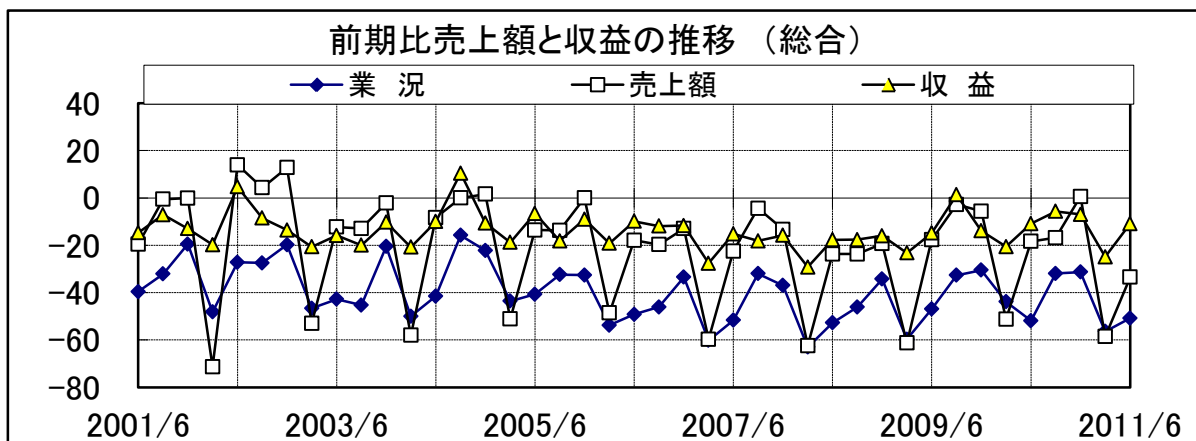
この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-31.3	-56.4	-50.8	-44.7
売上額	0.6	-58.6	-33.5	-20.1
収 益	-7.0	-24.9	-10.9	-30.8

14.0ポイント上昇した。

全業種総合の今期の業況判断DI値は△50.8と、前期比マイナス値が5.6ポイント縮小し、わずかながら持ち直した。地区別にみると、様似、えりも、広尾地区が改善し、浦河、三石で悪化している。静内地区は前期比横ばい。売上額、収益判断DI値は、売上額が△33.5、収益が△10.9と、前期比それぞれマイナス値が縮小し25.1、

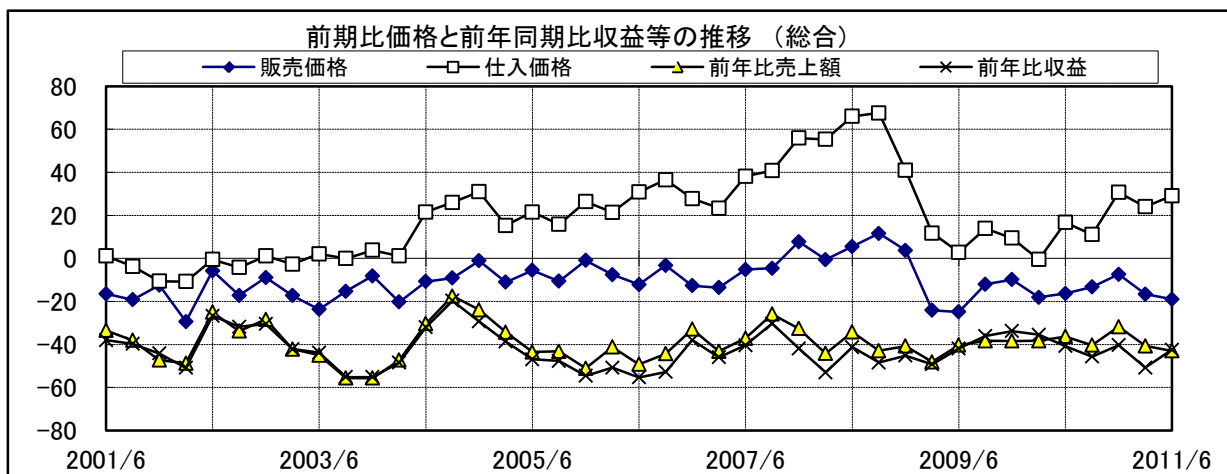


□ 価格面、前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	-7.4	-16.6	-19.0	-17.3
仕入価格	30.7	24.0	29.1	20.7

仕入価格は製造、建設が価格上昇基調を強め、小売は上昇基調から低下基調となり、サービスは上昇基調を弱めている。なお、卸売の仕入価格は低下基調を弱めゼロ値に転じている。

販売価格判断DI値(△19.0)は、前期比マイナス値が拡大し2.4ポイント低下、価格低下基調を強めている。仕入価格判断DI値(29.1)は、5.1ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、販売価格が製造、建設で低下基調を弱め、小売、サービスでは低下基調を強めている。なお、卸売業は横ばいの低下基調となっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-4.4	-15.1	-17.9	-5.0
人手状況	-4.0	6.1	3.9	-0.6

残業時間判断DI値は△17.9で、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比2.8ポイント低下した。人手過不足判断DI値は3.9で、前期比2.2ポイント下降、人手過剰感は弱まっている。

□ 設備投資の動き

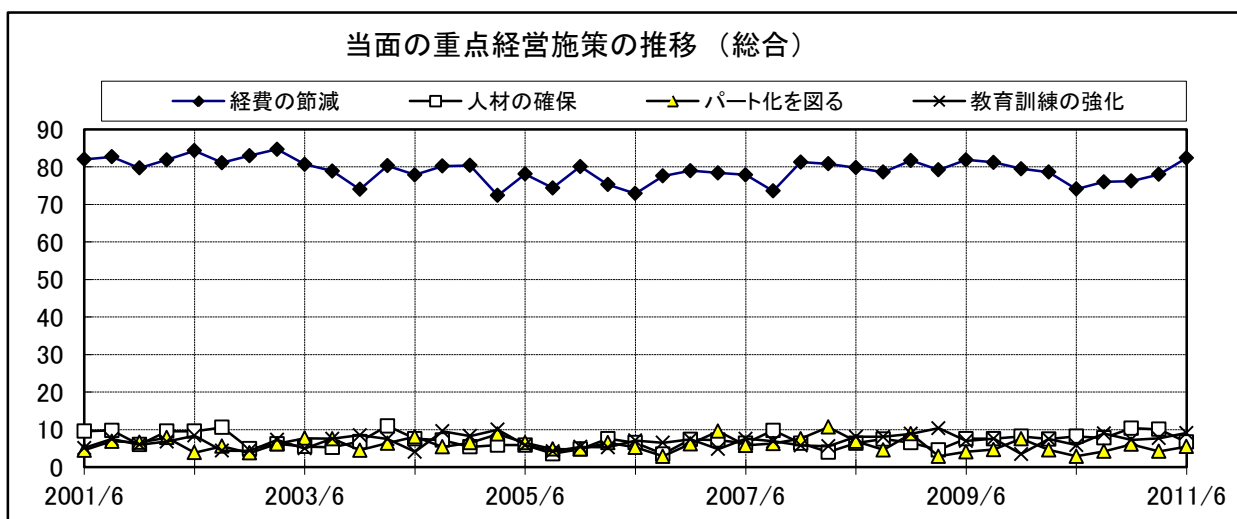
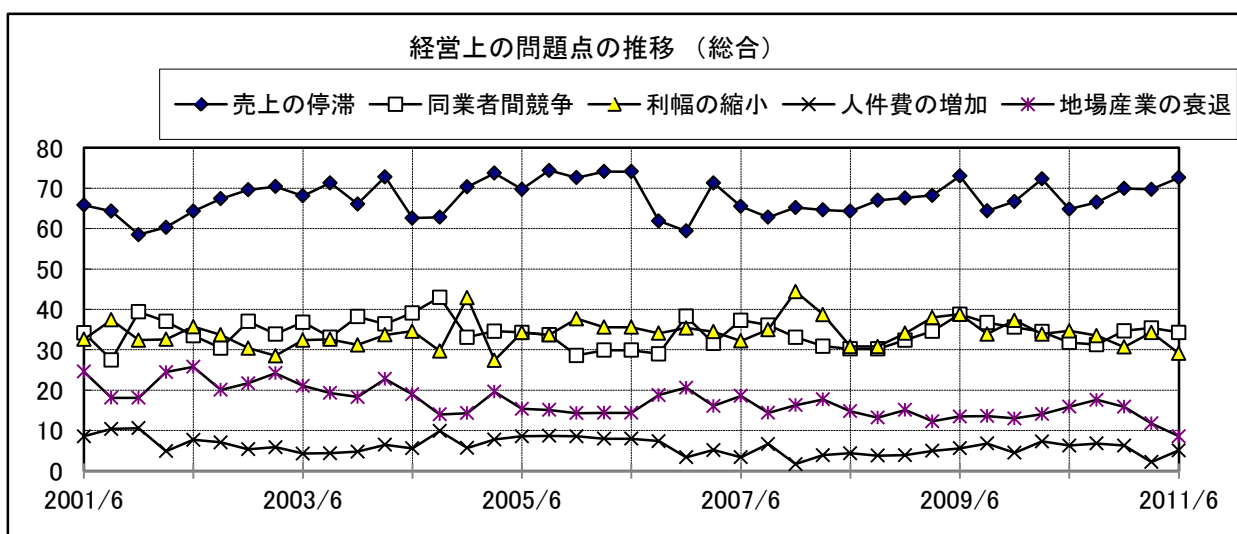
設備投資の充足感を示すD I 値は $\Delta 7.3$ と、前期 ($\Delta 8.4$) からマイナス値が縮小し1.1ポイント上昇、不足感を弱める一方、適正と回答した企業は75.9%と、前期 (77.2%) から1.3ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は18.4%と、前期 (16.2%) 比2.2ポイント上昇、件数で前期の29社に対し33社の実施となった。来期予定は当期比7社減の26社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」が72.6%で最も多く、次いで「同業者との競争」34.3%、「利幅の縮小」29.1%、「天候の不順」と回答する企業が9.1%となっている。

重点経営施策では、「経費の節減」が82.4%で突出している。これ以外には「教育訓練を強化」が9.1%、「人材を確保する」が6.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期 (平成23年7~9月期) の予想業況判断D I 値は $\Delta 44.7$ と、今期 ($\Delta 50.8$) 実績比6.1ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額が $\Delta 20.1$ (今期 $\Delta 33.5$) と、今期実績比マイナス値が縮小し13.4ポイント上昇見通しにある一方、収益は $\Delta 30.8$ (今期 $\Delta 10.9$) と、マイナス値が拡大し19.9ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、販売価格が $\Delta 17.3$ (今期 $\Delta 19.0$) と、今期実績比マイナス値が縮小し1.7ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は20.7 (今期29.1) と、今期実績比プラス値が縮小し8.4ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

製造業 40 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

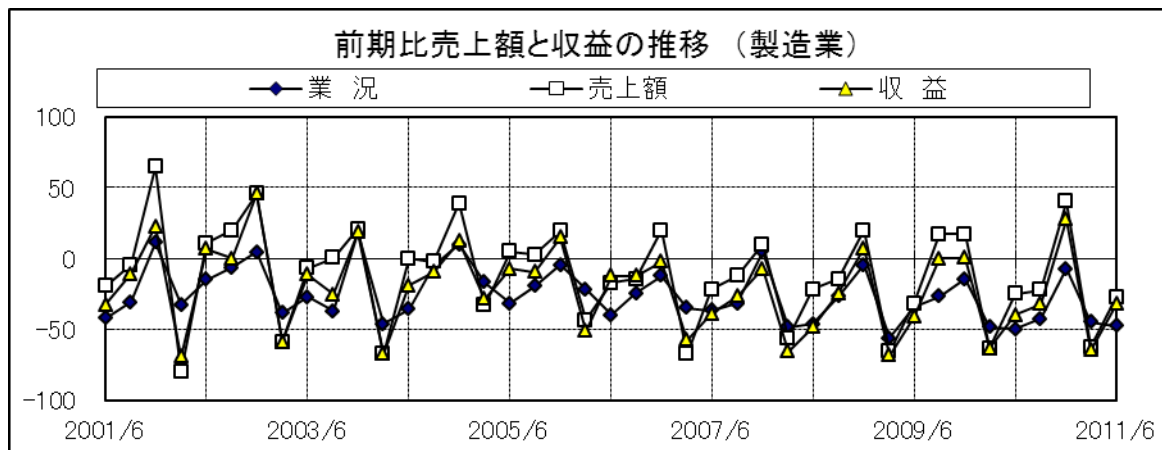
□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-7.5	-45.0	-47.5	-25.0
売上額	40.5	-62.5	-27.5	2.5
収 益	27.5	-65.0	-32.5	10.0

今期の業況判断DI値は $\Delta 47.5$ と、前期比マイナス値が2.5ポイント拡大し2期連続の悪化となった。地区別にみると、浦河、様似、えりも地区が改善し、静内、三石地区で悪化している。広尾地区は横ばい。

売上額、収益判断DI値は、売上額が $\Delta 27.5$ 、収益が $\Delta 32.5$ と、前期比それぞれマイナス値が縮小し35.0、

32.5ポイント上昇した。

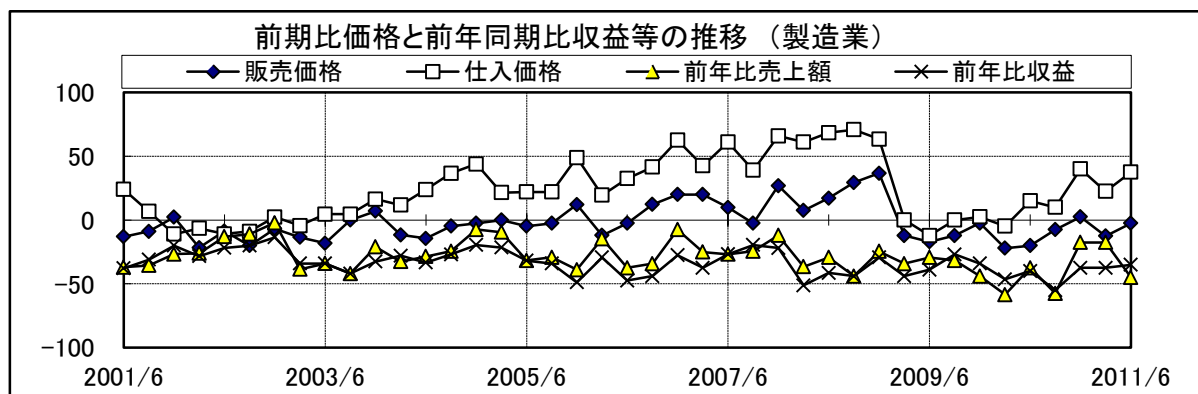


□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	2.5	-12.5	-2.5	-2.5
仕入価格	40.0	22.5	37.5	25.0

販売価格判断DI値($\Delta 2.5$)は、前期比マイナス値が縮小し10.0ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI値(37.5)は、15.0ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、食品が販売、仕入価格ともに上昇、木材は販売価格で上昇基調を弱め、

ゼロ値となり、仕入価格で上昇している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-4.4	-15.1	-12.5	-5.0
人手状況	-4.0	6.1	20.0	-2.5

残業時間判断DI値は $\Delta 12.5$ と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比2.6ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は20.0と、前期比13.9ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

□ 設備投資の動き

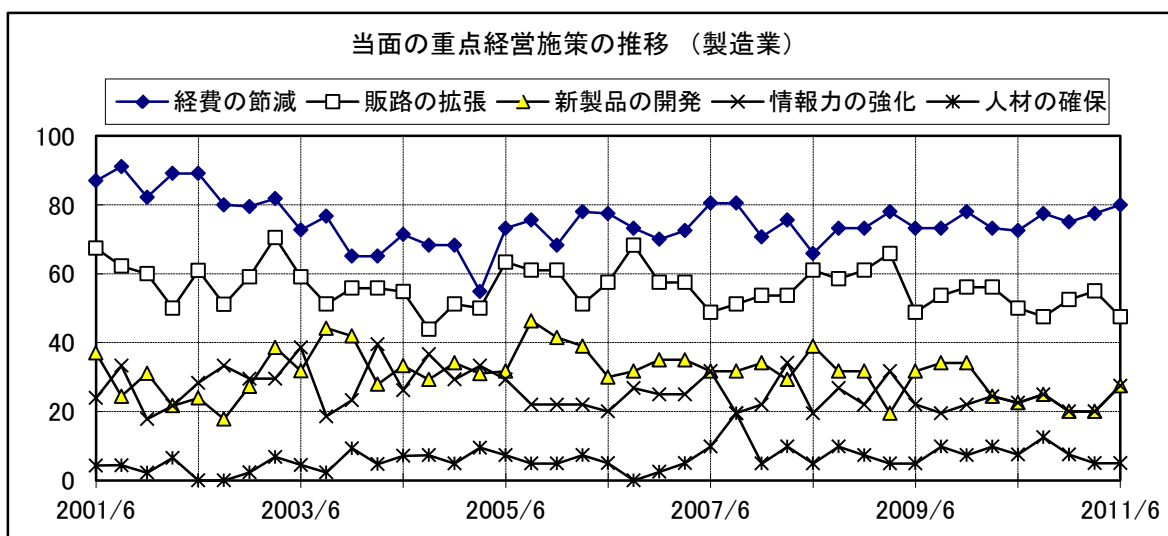
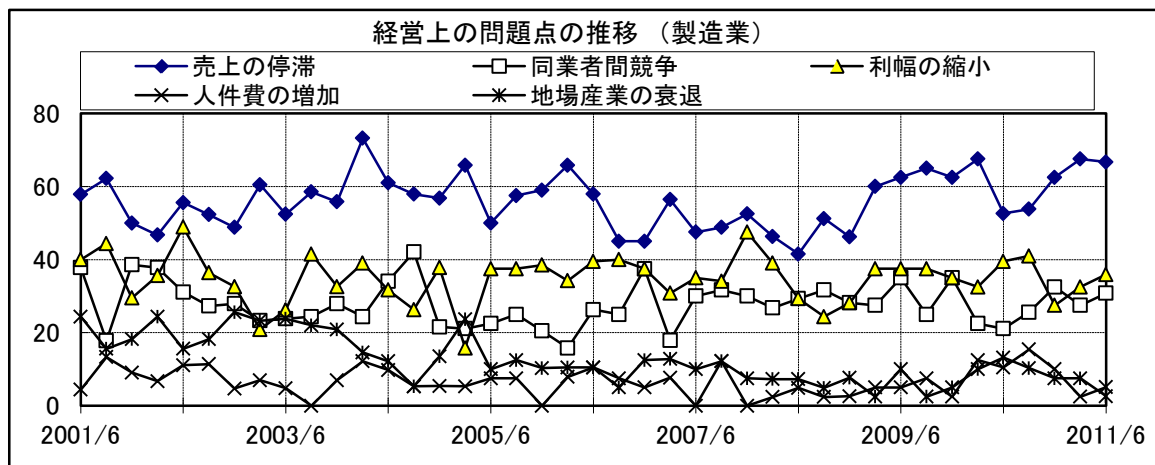
設備投資の充足感を示すD I値は $\Delta 15.0$ と、前期($\Delta 2.5$)からマイナス値が12.5ポイント拡大し不足感を強め、適正と回答した企業は75.0%と、前期(77.5%)から2.5ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は20.0%と、前期比横ばい、件数で前期同数の8社の実施となった。来期予定は当期比2社減の6社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ66.7%、次いで「原材料高」43.6%、「利幅の縮小」35.9%、「同業者間との競合」30.8%の順が続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ80.0%、次いで「販路を広げる」47.5%、「情報力の強化」27.5%、「新製品を開発する」22.5%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期（平成23年7～9月期）の予想業況判断D I値は $\Delta 25.0$ と、今期($\Delta 47.5$)実績比22.5ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が2.5（今期 $\Delta 27.5$ ）、収益が $\Delta 10.0$ （今期 $\Delta 32.5$ ）と、今期実績比それぞれ30.0、22.5ポイント上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格が $\Delta 2.5$ （今期 $\Delta 2.5$ ）で横ばい、一方、仕入価格は25.0（今期37.5）で12.5ポイント下降、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。